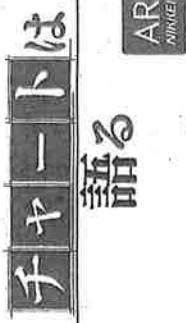


日本経済新聞

NIKKEI
2021年1月10日日曜版

新型コロナウイルス禍で失業するにむかうらず、就労を諦める人が増えている。日本英など10カ国で動き手や働く意欲がある人の合計は2020年7~9月期に前年より少なくともじぶん60万人減った。労働市場からの退出者が多くを占めるのは非正規雇用や若者など不安定な立場の人たちだ。株式市場の高騰で富裕層が潤う陰で民主主義や資本主義の足元を揺さぶる貧富の格差が一段と拡大しかねない。20年春以降の感染拡大の影響は、ます失業の増加として表れた。米国はコロナ前まで14.3%合った失業率が4月に近11月の失業者数が195万人で前年より44万人増え、10月で2桁台に達した。日本は直ちに打撃が大きいのは立場の弱い層だ。属性を分析できる就業者数のデータで、米国は4~9月期の減少率が全体会は19.1%に対し、24歳以下は16.8%短時間労働者は16.2%だった。7~9月期も660万人減った。感染が再拡大する10~12月期以降は一段と落ち込んでいる懸念が強い。



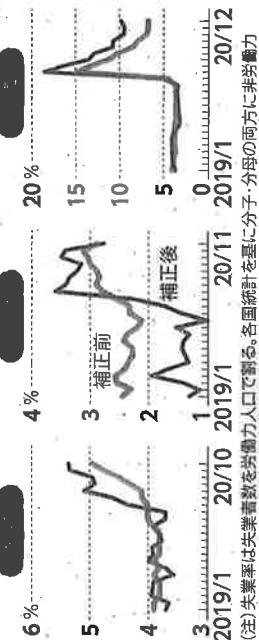
労働市場からの退出が進む



世界の労働力人口660万人減 難雇用・若規・若者に集中化

日本は11月の労働人口が11万人減の6902万人。4月以降、前年割れが続く。日本総合研究所は国内である時点に働いていた人が翌月に職を失い、未就職活動もしくは再雇用を計算している。18~19年はおよね1.1%で推移していたのが、20年後半は1.3%に膨らんでいた。労働市場からの退出者は雇用の実態を捉えるためには見逃せない。その分を加味して失業率を計算し直すと米国は12月の6.7%が9.8%になる。英国は10月の4.9%が5.4%に高まる。足元では世界を感染第3波が襲つ。雇用支援は持久戦にならざる立場が大きくなり、労働市場からあぶれた人に自配りした対策も求められる。日本総研の山田久嗣副理事長は「介護など手不足の産業に誘導する政策が必要だ」と指摘する。

失業率は政府統計よりも高水準に



ホワイドハッカート連携
講談社など32社、海賊版対策

弾劾室

米民主派議員は8日、中村義郎大統領の罷免を求める弾劾訴追の決議案を提出する方向で調整についた。6日に起きた在議会議事堂の占拠事件でトランプ氏が扇動し、主張に打撃を与えた責任で判断した。

（関連記事3面）

大阪府西河原とオニシマスで会談し、緊急事態宣言の発令を正式に要望

3麻

